

## 講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	1年
学 科	医療秘書科（薬局コース）	講義時間	時間割参照		
科目名	コミュニケーションスキルⅠ	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	2
講師名	鈴木 郁子	実務経験	医療機関（総合病院2年・診療所6年）8年 医療事務員として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	資格を活かし、病院等へ就職が決定するまで意識を高めるように取り組む。				
	<b>到達目標</b>				
	テキスト・面接対策ビジネスマナーを使用して、社会人としてのルールや医療従事者として心構えを学ぶ。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	入学後の学校生活について	11	14、言葉遣い（敬語を身につけよう） 15、言葉遣い（話の仕方、聞き方）
2	1、社会人になるとは 2、なぜ働くのか	12	16、言葉遣い（敬語の基本） 17、（間違えやすい敬語）
3	3、学生生活と社会人生活の違い 4、社会人としての心構え	13	18、電話応対（正しい電話応対） 19、電話応対（電話応対の注意点）
4	5、社会人としての求められる資質 6、職場の基本的なマナー	14	Ⅲ、電話応対について・まとめ・練習問題①
5	早期体験学習に向けて（ガイダンス）	15	期末考査（一般常識問題集より）
6	Ⅰ、社会人になるとは？まとめ・練習問題	16	一般常識問題
7	8、基本動作（立つ姿勢） 9、基本動作（お辞儀の仕方）	17	施設見学前ガイダンス
8	10、基本動作（椅子の立ち座り） 11、基本動作（歩き方）	18	施設見学前事前研修
9	12、基本動作（表情） 13、基本動作（発生練習）	19	施設見学前事前研修
10	Ⅱ、基本動作について・まとめ・練習問題	20	施設見学前事前研修

回数	講義内容	回数	講義内容
21	施設見学関連（まとめ）		
22	施設見学関連（報告会）		
23	施設見学関連（報告会）		
24	就職センター利用方法について		
25	各自、職種選択等について		
26	就職登録票の書き方		
27	履歴書作成について		
28	エントリーシートの役割を覚える①		
29	エントリーシートの役割を覚える②		
30	期末考査（一般常識問題集より）		

<b>講義方法</b> プリントを配布 適宜、グループ学習
<b>講義で使用する機器・教材</b> 必要に応じてipadを使用する
<b>履修上の注意事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業には休まず出席すること</li> <li>・就職前の準備として、社会人のマナーを身に付ける</li> </ul>
<b>成績評価方法</b> 授業態度、内容、小テスト、出席状況を考慮して評価する。
<b>教科書</b> 一般常識チェック&マスター
<b>参考書</b> 面接対策&ビジネスマナー
<b>予習復習のアドバイス</b> 特に予習復習なし

## 講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	1年
学 科	医療秘書科（薬局コース）	講義時間	時間割参照		
科目名	基礎医学	講義曜日	時間割参照	講義回数	45
		単位時間数	90	単位数	3
講師名	太田 利佳	実務経験	医療機関（総合病院）に医療事務員として5年勤務		
講義目標	一般目標				
	医学知識の基本を学習し、理解する。				
	到達目標				
	病院職員として必要な医学の知識を習得し、実務に活かせるようにする。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	Chapter 1 ①身体の方向・面・区分の表現方法	11	Chapter 3 ②血管
2	Chapter 1 ①身体の方向・面・区分の表現方法	12	Chapter 3 ③リンパ系
3	Chapter 1 ②人体の構成要素1,細胞	13	Chapter 4①体液の成分と役割②血液の組成 1～2
4	Chapter 1 ②人体の構成要素 2、ウイルス	14	Chapter 4 ②血液の組成 3～4
5	Chapter 1 ②人体の構成要素 3、組織	15	Chapter 5 ①骨格系 1、骨 2、骨の疾患
6	Chapter 2 神経系・感覚器 ①神経系1～8	16	Chapter 5 ①骨格系 3、関節の種類と構造
7	Chapter 2 ②感覚器 1、眼球の構造	17	Chapter 5 ②運動を行う筋系
8	Chapter 2 ②感覚器 4、聴覚障害	18	Chapter 6 泌尿器系①腎臓・尿路の形態と機能1、糸球体の構造と働き
9	Chapter 3 循環器系 ①心臓 1～5	19	Chapter 6 ②腎、泌尿器疾患の病態1、腎臓の疾患
10	Chapter 3 ①心臓 4～5	20	Chapter 6②腎、泌尿器疾患の病態1、腎臓の疾患

回数	講義内容	回数	講義内容
21	Chapter 6②腎、泌尿器疾患の病態 2、膀胱の疾患	36	Chapter 9②消化管疾患の病態 4、腸の疾患 (1) (2) (3)
22	Chapter 7 ①内分泌系の働き ②内分泌臓器の分布と機能	37	Chapter 9②消化管疾患の病態 4、腸の疾患 (4) (5) (6)
23	Chapter 7③内分泌臓器疾患の病態 2、甲状腺の疾患	38	Chapter 9②消化管疾患の病態 5、肝臓の疾患 (1) (2)
24	Chapter 7③内分泌臓器疾患の病態 3、副腎の疾患	39	Chapter 9②消化管疾患の病態 5、肝臓の疾患 (3) (4)
25	期末試験	40	Chapter 9②消化管疾患の病態 6、胆道系の疾患
26	Chapter 7③内分泌臓器疾患の病態 4、膵島の疾患	41	Chapter10②生殖器疾患の病体 1、女性生殖器の疾患 (2)
27	Chapter 8②呼吸器疾患の病態 2、下気道の疾患	42	Chapter10②生殖器疾患の病体 1、女性生殖器の疾患 (3)
28	Chapter 8②呼吸器疾患の病態 3、肺にできる悪性腫瘍	43	Chapter10②生殖器疾患の病体 1、女性生殖器の疾患 (4)
29	Chapter 8②呼吸器疾患の病態 4、胸膜の疾患	44	Chapter10 2、男性生殖器の疾患
30	Chapter 9 ①消化器の解剖と機能 1、消化管の機能および形態	45	期末試験
31	Chapter 9 ①消化器の解剖と機能 2、肝臓、胆嚢、膵臓の構造		
32	Chapter 9 ①消化器の解剖と機能 2、肝臓、胆嚢、膵臓の構造		
33	Chapter 9②消化管疾患の病態 1、口腔内の疾患		
34	Chapter 9②消化管疾患の病態 2、食道の疾患		
35	Chapter 9②消化管疾患の病態 3、胃の疾患 (1) (2)		

**講義方法**

プリントを配布  
適宜、グループ学習

**履修上の注意事項**

- ・授業には休まず出席すること

**成績評価方法**

授業態度、内容、小テスト、出席状況を考慮して評価する。

**教科書**

基礎医学

**予習復習のアドバイス**

特に予習復習なし

## 講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	1年
学 科	医療秘書科（薬局コース）	講義時間	時間割参照		
科目名	薬学一般	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	2
講師名	太田 利佳	実務経験	医療機関（総合病院）に医療事務員として5年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	医療機関で行われる検査、使用する薬について学ぶ				
	<b>到達目標</b>				
	保険請求などの医療事務の仕事に検査・薬理学を活かせるようにする。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	Chapter1 検査の基礎基礎知識 1、検体検査と生理機能検査	11	Chapter8 ①病理組織学的検査の流れ
2	Chapter2 一般検査 ①尿検査 ②糞便検査	12	Chapter9①染色体検査②遺伝子検査
3	Chapter2 一般検査 ③髄液検査	13	Chapter10 生理機能検査①心機能検査②呼吸機能検査
4	Chapter3 血液検査 ①血液一般検査②血液像	14	Chapter10③脳波④筋電図
5	Chapter3 血液検査 ③血液凝固検査④骨髓像検査	15	前期 期末考査
6	Chapter4 生化学的検査1～5	16	◎薬理編 Chapter1 ①薬理学とは ②医薬品とは
7	Chapter4 生化学的検査6～10	17	Chapter1③薬理作用の考え方④薬物投与方法
8	Chapter5 ①免疫性疾患・感染症の検査②アレルギー検査	18	Chapter2 末梢神経系①末梢神経系の生理②主な作用薬
9	Chapter6 ③自己免疫性疾患④細胞性免疫検査	19	Chapter3 中枢神経作用薬①中枢神経系の生理
10	Chapter7 微生物検査	20	Chapter3②主な作用薬

回数	講義内容	回数	講義内容
21	Chapter4消化器系疾患に用いる薬 ①消化器系の生理		
22	Chapter4 ②主な作用		
23	Chapter5 循環器系疾患に用いる薬 ①循環器系の生理		
24	Chapter5 循環器系疾患に用いる薬 ②主な作用薬		
25	Chapter6 代謝系疾患に用いる薬		
26	Chapter7 呼吸器系疾患作用薬		
27	Chapter8 アレルギー性疾患治療薬		
28	Chapter9 抗炎症薬		
29	Chapter10 抗炎症薬		
30	後期 期末考査		

<b>講義方法</b> プリントを配布 適宜、グループ学習
<b>講義で使用する機器・教材</b> 必要に応じてipadを使用する
<b>履修上の注意事項</b> ・授業には休まず出席すること
<b>成績評価方法</b> 授業態度、内容、小テスト、出席状況を考慮して評価する。
<b>教科書</b> 検査・薬理学
<b>参考書</b> 特になし
<b>予習復習のアドバイス</b> 特に予習復習なし

## 講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	1年
学 科	医療秘書科（薬局コース）	講義時間	時間割参照		
科目名	医事ソフトⅠ	講義曜日	時間割参照	講義回数	60
		単位時間数	120	単位数	4
講師名	鈴木 郁子	実務経験	医療機関（総合病院2年・診療所6年）8年 医療事務員として勤務		
講義目標	一般目標				
	医事会計システム基本入力の理解				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スムーズな会計入力</li> <li>・会計ソフトの役割を理解し活用できるようになる</li> </ul>				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	タッチタイピング①	16	・例題9の内容説明 ・例題9の入力
2	タッチタイピング②	17	・例題10の内容説明 ・例題10の入力
3	タッチタイピング③	18	・例題11の内容説明 ・例題11の入力
4	医事ソフトの基本操作①	19	・例題12の内容説明 ・例題12の入力
5	医事ソフトの基本操作②	20	・例題13の内容説明 ・例題13の入力
6	・例題0-1の内容説明 ・例題0-1の入力	21	・例題14の内容説明 ・例題14の入力
7	・例題0-2の内容説明 ・例題0-2の入力	22	・例題15の内容説明 ・例題15の入力
8	・例題1の内容説明 ・例題1の入力	23	・例題16の内容説明 ・例題16の入力
9	・例題2の内容説明 ・例題2の入力	24	・例題17の内容説明 ・例題17の入力
10	・例題3の内容説明 ・例題3の入力	25	・例題18の内容説明 ・例題18の入力
11	・例題4の内容説明 ・例題4の入力	26	・例題18の内容説明 ・例題18の入力
12	・例題5の内容説明 ・例題5の入力	27	・例題19の内容説明 ・例題19の入力
13	・例題6の内容説明 ・例題6の入力	28	・例題20の内容説明 ・例題20の入力
14	・例題7の内容説明 ・例題7の入力	29	・例題21・22内容説明 ・例題21・22の入力
15	・例題8の内容説明 ・例題8の入力	30	前期 期末考査



回数	講義内容	回数	講義内容
31	・例題 2 3 の内容説明 ・例題 2 3 の入力	56	・例題 4 2 の内容説明 ・例題 4 2 の入力
32	・例題 2 4 の内容説明 ・例題 2 4 の入力	57	・例題 4 3 の内容説明 ・例題 4 3 の入力
33	・例題 2 5 の内容説明 ・例題 2 5 の入力	58	・例題 4 4 の内容説明 ・例題 4 4 の入力
34	・例題 2 7 の内容説明 ・例題 2 7 の入力	59	・例題 4 5 の内容説明 ・例題 4 5 の入力
35	・例題 2 8 の内容説明 ・例題 2 8 の入力	60	後期 期末考査
36	前期総復習①		
37	前期総復習②		
38	前期総復習③		
39	前期総復習④		
40	前期総復習⑤		
41	・例題 2 9 の内容説明 ・例題 2 9 の入力		
42	・例題 2 9 の内容説明 ・例題 2 9 の入力		
43	・例題 3 0 の内容説明 ・例題 3 0 の入力		
44	・例題 3 1 の内容説明 ・例題 3 1 の入力		
45	・例題 3 2 の内容説明 ・例題 3 2 の入力		
46	・例題 3 3 の内容説明 ・例題 3 3 の入力		
47	・例題 3 4 の内容説明 ・例題 3 4 の入力		
48	・例題 3 5 の内容説明 ・例題 3 5 の入力		
49	・例題 3 6 の内容説明 ・例題 3 6 の入力		
50	・例題 3 7 の内容説明 ・例題 3 7 の入力		
51	・例題 3 8 の内容説明 ・例題 3 8 の入力		
52	・例題 3 9 の内容説明 ・例題 3 9 の入力		
53	・例題 4 0 の内容説明 ・例題 4 0 の入力		
54	入院の入力方法		
55	・例題 4 1 の内容説明 ・例題 4 1 の入力		

**講義方法**

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。

**講義で使用する機器・教材**

医事会計システム、プロジェクター、スクリーン、PC

**履修上の注意事項**

- ・授業には休まず出席すること

**成績評価方法**

授業態度、内容、小テスト、出席状況を考慮して評価する。

**教科書**

入力練習問題集

**予習復習のアドバイス**

特に予習復習なし

点数算定について正確に行い、日計処理などの不明点はそのままにせず、

授業時間内、又は休み時間に確認すること

## 講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科	医療秘書科（薬局コース）	講義時間	時間割参照		
科目名	医療秘書	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	鈴木 郁子	実務経験	医療機関（総合病院2年・診療所6年）8年 医療事務員として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	病院実務マナーを身に付け、臨機応変に患者対応を行えるようにする				
	<b>到達目標</b>				
	患者とのコミュニケーション能力を身に付ける クレーム対応など基本動作を覚える				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	第1章 医療事務の心構えとマナー	11	3-2、電話のかけ方
2	1-1、医療現場での接遇・コミュニケーション	12	3-3、電話の取次ぎ・伝言
3	1-2、身だしなみと第一印象	13	第4章 来客対応
4	第2章 好感、安心感を与えるコミュニケーションの基本	14	4-1、来客対応の基本（1）
5	2-1、非言語メッセージ	15	前期 期末考査
6	2-2、言語メッセージ		
7	2-3、敬語と言葉遣い		
8	2-4、受容と共感		
9	第3章 電話対応		
10	3-1、電話の受け方		

**講義方法**

プリントを配布  
適宜、グループ学習

**講義で使用する機器・教材**

教科書は使いやすいように付箋を付けるなどの工夫をすること。  
お茶入れのマナーなど実技についても積極的に取り組むこと  
理解できない部分については質問をし、その日のうちに解決すること。

**履修上の注意事項**

- ・授業には休まず出席すること

**成績評価方法**

授業態度、内容、小テスト、出席状況を考慮して評価する。

**教科書**

医療事務スタッフのためのケア・コミュニケーション

**予習復習のアドバイス**

特に予習復習なし

## 講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科	医療秘書科（薬局コース）	学 年	時間割参照		
科目名	薬理学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	太田 利佳	実務経験	医療機関（総合病院）に医療事務員として5年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	薬理学の基礎を学習し、仕組みを理解する。				
	<b>到達目標</b>				
	薬理学の基本を身に付け、実務に活かせるようにする。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	第二部 薬学総論第1章～第3章	11	第9章 肩こり・腰痛・筋肉痛 第10章 外用皮膚炎薬
2	第4章 薬の服用方法第5章 薬の形（剤形）	12	第11章 下痢止め薬（止瀉薬） 第12章 整腸薬
3	第6章 薬の副作用 第7章 女性・子供・お年寄りとの薬	13	第13章 便秘治療薬 第14章 水虫治療薬 第15章 痔治療薬
4	第8章 相互作用 第9章 生活習慣病の基礎知識	14	第四部 過去問題
5	第10章 持病のある人と大衆薬 第11章 栄養素	15	期末試験
6	第12章 保険機能食品第13章 サプリメント 第14章 アレルギー（免疫）		
7	第三部 お薬各論 第1章 解熱鎮痛薬第2章 鎮咳去痰薬		
8	第3章 鼻炎用薬（内服用・外用） 第4章 かぜ薬（総合感冒薬）		
9	第5章 胃腸薬（制酸薬・H <sub>2</sub> ブロッカー・鎮痛鎮痙薬）第6章 胃腸薬（消化薬・健胃薬）		
10	第7章 目薬 第8章 乗り物酔いの薬		

**講義方法**

プリントを配布

**講義で使用する機器・教材**

教科書は使いやすいように付箋を付けるなどの工夫をすること。

**履修上の注意事項**

- ・授業には休まず出席すること

**成績評価方法**

授業態度、内容、小テスト、出席状況を考慮して評価する。

**教科書**

よくわかる薬理学

**予習復習のアドバイス**

理解できない部分については質問をし、その日のうちに解決すること。

事前にテキストに目を通しておく

## 講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	2年
学 科	医療秘書科（薬局コース）	講義時間	時間割参照		
科目名	コミュニケーションスキルⅡ	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	2
講師名	鈴木 郁子	実務経験	医療機関（総合病院2年・診療所6年）8年 医療事務員として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	資格を活かし、病院等へ就職が決定するまで意識を高めるように取り組む。				
	<b>到達目標</b>				
	自身の勤務先となる（病院、診療所、薬局、介護施設）等の、企業研究に取り組み早期に就職試験に取り組む準備をする。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	履歴書作成・施設研究 ※一般常識問題集P4～17	11	施設訪問（一次面接）・施設訪問の準備 ※一般常識問題集P64～67
2	履歴書作成（ガイダンス） ※一般常識問題集P18～21	12	アポイントメントの取り方・訪問時のマナー等 ※一般常識問題集P68～71
3	履歴書作成・施設研究 ※一般常識問題集P22～25	13	就職試験対策（履歴書・面接等） ※一般常識問題集P72～75
4	履歴書作成・施設研究 ※一般常識問題集P26～31	14	就職試験対策（履歴書・面接等） ※一般常識問題集P76～79
5	履歴書作成・施設研究 ※一般常識問題集P32～33	15	期末考査（問題集より）
6	面接選考はなぜ行われるか・採用担当者の気持ちを考える ※一般常識問題集P34～37	16	就職試験対策（履歴書・面接等） ※一般常識問題集P80～85
7	面接試験の形式・面接の段階 ※一般常識問題集P38～45	17	就職試験対策（履歴書・面接等） ※一般常識問題集P86～97
8	面接の目的のまとめ ※一般常識問題集P46～51	18	就職試験対策（履歴書・面接等） ※一般常識問題集P98～101
9	面接練習 ※一般常識問題集P52～57	19	就職試験対策（履歴書・面接等） ※一般常識問題集P102～107
10	面接練習 ※一般常識問題集P58～63	20	就職試験対策（履歴書・面接等） ※一般常識問題集P108～117

回数	講義内容	回数	講義内容
21	就職試験対策（履歴書・面接等） ※一般常識問題集P118		
22	就職試験対策（履歴書・面接等） ※一般常識問題集P119		
23	就職試験対策（履歴書・面接等） ※一般常識問題集P120～122		
24	就職試験対策（履歴書・面接等） ※一般常識問題集P123～125		
25	就職試験対策（履歴書・面接等） ※一般常識問題集P126～128		
26	就職試験対策（履歴書・面接等） ※一般常識問題集P129～131		
27	就職試験対策（履歴書・面接等） ※一般常識問題集P133～136		
28	就職試験対策（履歴書・面接等） ※一般常識問題集P137～143		
29	就職試験対策（履歴書・面接等） ※一般常識問題集P144～152		
30	期末考査（問題集より）		

<b>講義方法</b> プリントを配布 適宜、グループ学習
<b>講義で使用する機器・教材</b> 必要に応じてipadを使用する
<b>履修上の注意事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業には休まず出席すること</li> <li>・就職前の準備として、社会人のマナーを身に付ける</li> </ul>
<b>成績評価方法</b> 授業態度、内容、小テスト、出席状況を考慮して評価する。
<b>教科書</b> 一般常識&SPI12
<b>参考書</b> 面接対策&ビジネスマナー
<b>予習復習のアドバイス</b> 特に予習復習なし



## 講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	前期	学 年	2年
学 科	医療秘書科（薬局コース）	講義時間	時間割参照		
科目名	ビジネス作法	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	太田 利佳	実務経験	医療機関（総合病院）に医療事務員として5年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	医療業務に関わらず、社会人としての所作・作法を理解する				
	<b>到達目標</b>				
	自身の勤務先となる（病院、診療所、薬局、介護施設）等の、企業研究に取り組み早期に就職試験に取り組む準備をする。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	1、オリエンテーション マナーやプロトコールとは何か	11	11、ビジネスマナー 名刺交換、来客対応
2	2、好感度を高めるポイント 第一印象、挨拶、表情、笑顔	12	12、通過儀礼とは何か
3	3、言葉遣いと話し方のポイント 正しい敬語や丁寧な話し方	13	13、結婚のしきたりとパーティーの種類
4	4、自己紹介をしてみる (笑顔、歩き方、姿勢、話し方練習)	14	14、葬儀のしきたりと贈答のしきたり
5	5、プロトコールとは何か 5原則、席次、国旗、握手	15	期末考査
6	6、プロトコールとは何か 異文化を知る		
7	7、和食のテーブルマナー 箸の使い方の練習		
8	8、洋食のテーブル カトラリーの使い方		
9	9、手紙の書き方とビジネス文書 正式な手紙を書いてみる		
10	10、ビジネスマナー 会社とは何か、社会人意識		

**講義方法**

プリントを配布

適宜、グループ学習

**履修上の注意事項**

- ・ 授業には休まず出席すること

**成績評価方法**

授業態度、内容、小テスト、出席状況を考慮して評価する。

**教科書**

マナープロトコール検定のテキスト

**予習復習のアドバイス**

特に予習復習なし

## 講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	前期	学 年	2年
学 科	医療秘書科（薬局コース）	講義時間	時間割参照		
科目名	臨床医学Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	太田 利佳	実務経験	医療機関（総合病院）に医療事務員として5年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	臨床医学全般について検定内容も含め学習する。				
	<b>到達目標</b>				
	病院職員として必要な臨床医学の知識を習得し、実務に活かせるようにする。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	内科とは	11	chapter 6 血液疾患①血液中の構成成分とその働き②血液の主な疾患
2	chapter 1 呼吸器疾患 ① 呼吸器の解剖と働き	12	chapter 7 アレルギー・膠原病①免疫系の働き ②主な疾患
3	chapter 1 呼吸器疾患 ② 呼吸器の主な疾患	13	chapter 8 感染症①感染症とは ②主な感染症
4	chapter 2 循環器疾患① 循環器の解剖と働き	14	chapter 9 脳・脊髄疾患①脳・脊髄の解剖と働き②脳・脊髄の主な疾患
5	chapter 2 循環器疾患② 循環器の主な働き	15	期末試験
6	chapter 3 消化器疾患 ①消化器の解剖と働き		
7	chapter 3 消化器疾患② 消化器の主な疾患		
8	chapter 3 消化器疾患② 消化器の主な疾患		
9	chapter 4 腎・泌尿器疾患② 泌尿器の主な疾患		
10	chapter 5 内分泌・代謝疾患①内分泌系の解剖と働き②内分泌系の主な疾患		

**講義方法**

教科書をメインとしながら、適宜参考資料のプリントを配布

**履修上の注意事項**

- ・授業には休まず出席すること

**成績評価方法**

授業態度、内容、小テスト、出席状況を考慮して評価する。

**教科書**

臨床医学Ⅰ

**予習復習のアドバイス**

授業前に教科書を読んでおくこと。

授業後は、教科書・ノートで重要事項の復習を行うこと。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	前期	学 年	2年
学 科	医療秘書科（薬局コース）	講義時間	時間割参照		
科目名	D P C 演習	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	2
講師名	鈴木 郁子	実務経験	医療機関（総合病院2年・診療所6年）8年 医療事務員として勤務		
講義目標	一般目標				
	DPC（診断群分類）による入院料の包括支払制度を理解する				
	到達目標				
	DPCの基礎となる診断群分類をマスターする 入院期間別点数を理解する				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	1、DPCの概要	11	3、診断群分類番号の構成
2	1、①診断群分類とは	12	3、①傷病名「MDC」「コード」
3	1、②DPC/PDPS導入の背景	13	3、②入院目的
4	1、③対象となる医療機関・病棟	14	3、③年齢・出生体重等
5	1、④対象となる患者・対象とならない患者	15	3、④診療行為、⑤手術処置1
6	2、ツリー図・定義テーブルによる診断群分類の決定	16	3、⑥手術処置2 ⑦副傷病
7	2、①包括評価の対象となる診断群分類	17	3、⑧重症度等
8	2、②包括評価の対象とならない診断群分類	18	4、診療報酬額の算定方法
9	2、③傷病名の決定	19	4、①所定点数に包括されるもの
10	2、④ツリー図と定義テーブルを用いて診断群分類を決定	20	4、②入院期間に応じた点数の設定

回数	講義内容	回数	講義内容
21	4、③医療機関別係数	31	
22	4、④特定入院料の取り扱い	32	
23	4、⑤診断群分類等に変更があった場合等の 取扱い	33	
24	4、⑥同一傷病での再入院に係る取扱い	34	
25	4、⑦その他の注意点	35	
26	5、診療報酬額の請求とレセプトの記載	36	
27	5、①包括評価部分欄の記載要領	37	
28	5、②DPCレセプト記載要領の一般的事項	38	
29	5、③DPCレセプト各欄の記載方法	39	
30	期末考査	40	

#### 講義方法

プリントを配布  
適宜、グループ学習

#### 講義で使用する機器・教材

必要に応じてipadを使用する

#### 履修上の注意事項

・授業には休まず出席すること

#### 成績評価方法

授業態度、内容、小テスト、出席状況を考慮して評価する。

#### 教科書

DPC点数早見表

#### 予習復習のアドバイス

各DPC演習問題については、小テストを行うため  
不明な点は、その都度確認し質問すること

## 講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	前期	学 年	2年
学 科	医療秘書科（薬局コース）	講義時間	時間割参照		
科目名	医事ソフトⅡ	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	2
講師名	鈴木 郁子	実務経験	医療機関（総合病院2年・診療所6年）8年 医療事務員として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	電子カルテの全体像を理解し、スムーズな入力ができるようにする				
	<b>到達目標</b>				
	電子カルテシステムを理解する 診断書などの文書作成の操作を理解する 診療記録の代行入力での入りにミスがないように細心の注意を払う				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	1、電子カルテシステムの全体像	11	1 1、電子カルテシステムの定義 （日本医療情報学会の見解）
2	2、医療機関における業務処理フロー① （病院：外来の場合）	12	1 2、電子カルテシステムのメリット
3	3、医療機関における業務処理フロー② （病院：入院の場合）	13	1 3、電子カルテの機能
4	4、国策として推進されるIT化	14	1 4、電子カルテの型
5	5、診療録の法的要件と電子化への道	15	1 5、電子カルテの関連知識 （部門システム）
6	6、診療録に関する法的要件	16	1 6、電子カルテの関連知識 （オーダリングシステム）
7	7、電子カルテに関する法的要件 （電子保存の3原則）	17	1 7、電子カルテの関連知識 （電子カルテシステムの基本的な機能）
8	8、電子カルテに関する法的要件 （診療録の外部保存の容認）	18	1 8、ユーザー認証、アクセス権限管理・アクセスログ管理
9	9、医療情報システム発展の中での位置づけ	19	1 9、確定保存と確定操作、問診票の入力
10	1 0、電子カルテの定義 （保健医療福祉情報システム工業会の見解）	20	2 0、電子カルテの記載方法、入力支援ツール

回数	講義内容	回数	講義内容
21	2 1、レセプト電算処理システム	31	
22	2 2、オンライン請求システム	32	
23	2 3、医療情報の標準化	33	
24	2 4、プライバシー保護とセキュリティ	34	
25	2 5、第三者評価、認証制度等	35	
26	2 6、地域医療情報システム、電子カルテシステムの今後の課題	36	
27	2 7、電子カルテソフトの操作方法 I	37	
28	2 8、①システムの全体像	38	
29	2 9、②診療所（外来）	39	
30	前期 期末考査	40	

#### 講義方法

プリントを配布

#### 講義で使用する機器・教材

PC、電子カルテソフト、プロジェクター

#### 履修上の注意事項

・授業には休まず出席すること

#### 成績評価方法

授業態度、内容、小テスト、出席状況を考慮して評価する。

#### 教科書

電子カルテシステムの理解と演習

#### 予習復習のアドバイス

特に予習復習なし

電子カルテシステムを正確に入力できるようその都度習得すること。



## 講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	前期	学 年	2年
学 科	医療秘書科（薬局コース）	講義時間	時間割参照		
科目名	医療秘書実務	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	鈴木 郁子	実務経験	医療機関（総合病院2年・診療所6年）8年 医療事務員として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	医療における患者さんや、その家族の方々との「接遇・接遇対応マナー」は医師をはじめ、それぞれの目の前にいる患者さんに対して肉体的・精神的な辛さをわかろうと努力できる姿勢を身に付ける				
	<b>到達目標</b>				
	医療従事者としての態度や言葉遣いを身に付ける 院内の取り決めをも守り、柔軟な対応を身に付ける				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	1、職場における人間関係の重要性	11	1 1、事務文書の書き方・作り方
2	2、組織人・医療人としての基本	12	1 2、院内におけるエレベーターでのマナー
3	3、職場の基本的ルールとエチケットマナー	13	1 3、院内での指示・命令の受け方と報告の仕方
4	4、接患・接遇対応の基本	14	1 4、医療ミス・医療事故等を防止するための院内活動
5	5、接患・接遇対応の実践	15	期末考査
6	6、病医院職員の服装と身だしなみ	16	
7	7、院内における正しい姿勢と執務の態度	17	
8	8、院内での言葉の使い方と話し方	18	
9	9、敬語の使い方演習問題	19	
10	1 0、院内における電話の受け方・かけ方	20	

**講義方法**

プリントを配布  
適宜、グループ学習

**講義で使用する機器・教材**

ipadを使用

**履修上の注意事項**

- ・授業には休まず出席すること
- ・教科書はラインを引くなど、重要ポイント・用語が分かりやすいように、自分なりに作り上げること。
- ・理解できない部分については質問をし、その日のうちに解決すること。

**成績評価方法**

授業態度、内容、小テスト、出席状況を考慮して評価する。

**教科書**

医療事務スタッフのためのケア・コミュニケーション

**予習復習のアドバイス**

特に予習復習なし  
復習を行い、難しい用語、点数算定は正確にできるようその都度習得すること。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	前期	学 年	2年
学 科	医療秘書科（薬局コース）	学 年	時間割参照		
科目名	薬局事務総合演習	講義曜日	時間割参照	講義回数	60
		単位時間数	120	単位数	4
講師名	太田 利佳	実務経験	医療機関（総合病院）に医療事務員として5年勤務		
講義目標	一般目標				
	薬学知識を習得し、実務に活かせるようにする。				
	到達目標				
	薬学検定試験1級・2級取得を目指す				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	医療用医薬品 第1章 中枢神経系に作用する薬	16	医療用医薬品 第9章 血液・造血器官に作用する薬
2	医療用医薬品 第1章 中枢神経系に作用する薬	17	医療用医薬品 第10章 眼に作用する薬
3	医療用医薬品 第2章 末梢神経に作用する薬	18	医療用医薬品 第11章 ホルモンとホルモン療法薬
4	医療用医薬品 第2章 末梢神経に作用する薬	19	医療用医薬品 第11章 ホルモンとホルモン療法薬
5	医療用医薬品 第3章 抗炎症薬	20	医療用医薬品 第12章 糖尿病治療薬
6	医療用医薬品 第4章 抗アレルギー薬	21	医療用医薬品 第12章 糖尿病治療薬
7	医療用医薬品 第4章 抗アレルギー薬	22	医療用医薬品 第13章 高脂血症治療薬
8	医療用医薬品 第5章 心臓血管系に作用する薬	23	医療用医薬品 第13章 高脂血症治療薬
9	医療用医薬品 第5章 心臓血管系に作用する薬	24	医療用医薬品 第14章 高尿酸血症治療薬
10	医療用医薬品 第6章 呼吸器系に作用する薬	25	医療用医薬品 第15章 病原生物に作用する薬
11	医療用医薬品 第7章 消化器系に作用する薬	26	医療用医薬品 第15章 病原生物に作用する薬
12	医療用医薬品 第7章 消化器系に作用する薬	27	医療用医薬品 第16章 抗悪性腫瘍薬
13	医療用医薬品 第8章 泌尿器系に作用する薬	28	医療用医薬品 第17章 その他
14	医療用医薬品 第8章 泌尿器系に作用する薬	29	疾患名 第1章 循環器系の疾患
15	医療用医薬品 第9章 血液・造血器官に作用する薬	30	疾患名 第3章 消化器系の疾患

回数	講義内容	回数	講義内容
31	疾患名 第3章 消化器系の疾患	56	Ⅲ（1級） 本試験問題 51～100問
32	疾患名 第5章 内分泌・代謝性の疾患	57	Ⅲ（1級） 本試験問題 51～100問 解答解説
33	疾患名 第5章 内分泌・代謝性の疾患	58	Ⅲ（2級） 本試験問題 1～40問
34	疾患名 第7章 耳鼻咽喉系の疾患	59	Ⅲ（2級） 本試験問題 1～40問 解答解説
35	疾患名 第9章 女性の疾患	60	期末試験
36	疾患名 第11章 脳と神経の疾患		
37	疾患名 第13章 眼疾患		
38	疾患名 第15章 骨と関節の疾患		
39	第17章 感染症およびその他		
40			Ⅰ（1級） 本試験問題 1～50問
41			Ⅰ（1級） 本試験問題 1～50問 解答解説
42			Ⅰ（1級） 本試験問題 41～80問
43			Ⅰ（1級） 本試験問題 41～80問 解答解説
44			Ⅰ（2級） 本試験問題 40問
45			Ⅰ（2級） 本試験問題 40問 解答解説
46			Ⅱ（1級） 本試験問題 1～50問
47			Ⅱ（1級） 本試験問題 1～50問 解答・解説
48			Ⅱ（1級） 本試験問題 50～100問
49			Ⅱ（1級） 本試験問題 50～100問 解答解説
50			Ⅱ（2級） 本試験問題 1～40問
51			Ⅱ（2級） 本試験問題 1～40問 解答解説
52			Ⅱ（2級） 本試験問題 41～80問
53			Ⅱ（2級） 本試験問題 41～80問 解答解説
54			Ⅲ（1級） 本試験問題 1～50問
55			Ⅲ（1級） 本試験問題 1～50問 解答解説

**講義方法**

プリントを配布  
適宜、グループ学習

**講義で使用する機器・教材**

ipadを使用

**履修上の注意事項**

- ・授業には休まず出席すること
- ・教科書はラインを引くなど、重要ポイント・用語がが分かりやすいように、自分なりに作り上げること。
- ・理解できない部分については質問をし、その日のうちに解決すること。

**成績評価方法**

授業態度、内容、小テスト、出席状況を考慮して評価する。

**教科書**

薬学検定

**予習復習のアドバイス**

特に予習復習なし

復習を行い、難しい用語、点数算定は正確にできるようその都度習得すること。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	後期	学 年	2年
学 科	医療秘書科（医療秘書コース）	講義時間	時間割参照		
科目名	窓口対応演習	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	鈴木 郁子	実務経験	医療機関（総合病院2年・診療所6年）8年 医療事務員として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	窓口でのやりとり、電話対応などを実技演習を中心現場での一連の流れをスムーズに行う。				
	<b>到達目標</b>				
	患者、医師からの問い合わせ等、医療機関を想定し場面ごとに臨機応変に的確に返答できる。 ケアコンシェルジュの資格取得を目標とする。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	保険資格の問い合わせについて	11	窓口演習実習①
2	保険診療・保険給付について	12	窓口演習実習①
3	後期高齢者医療制度について	13	窓口演習実習②
4	一部負担金について	14	窓口演習実習③
5	療養費について、手続き方法など	15	期末考査
6	高額療養費について		
7	入院時食事療養費について		
8	保険外併用療養費制度について		
9	実費徴収について		
10	有料診断書について		

**講義方法**

プリントを配布  
適宜、グループ学習

**履修上の注意事項**

- ・授業には休まず出席すること

**成績評価方法**

授業態度、内容、小テスト、出席状況を考慮して評価する。

**教科書**

ケアコンシェルジュテキスト

**予習復習のアドバイス**

特に予習復習なし

## 講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	後期	学 年	2年
学 科	医療秘書科（薬局コース）	講義時間	時間割参照		
科目名	医療法規Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	2
講師名	鈴木 郁子	実務経験	医療機関（総合病院2年・診療所6年）8年 医療事務員として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	医療事務関連の法律は、患者との対応を行う上で重要な関わりを持つため理解が必要である。				
	<b>到達目標</b>				
	医療制度、保険診療に関する制度、社会福祉に関する制度を理解する。 医療保険各法、その他公費負担に関する法の理解を深める。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	1、医療法	11	1 1、母体保護法、母子保健法
2	2、独立行政法人国立病院機構	12	1 2、薬事法、麻薬向精神薬取締法、毒物及び劇物取締法
3	3、救急医療用ヘリコプターを用いた救急医療の確保に関する特別措置法	13	1 3、医療保険制度、医療保険の種類、医療保険各法
4	4、医師法、歯科医師法	14	1 4、健康保険法、船員保険法
5	5、薬剤師法、保健師助産師看護師法	15	1 5、船員保険法、国家公務員共済組合法
6	6、社会福祉士及び介護福祉法	16	1 6、国民健康保険法、退職者医療制度
7	7、精神保健福祉士法	17	1 7、高齢者の医療の確保に関する法律
8	8、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律	18	1 8、診療報酬に関する法規
9	9、予防接種法、検疫法、地域保健法	19	1 9、労働者災害補償保険法
10	1 0、精神保健及び精神障害福祉に関する法律	20	2 0、雇用保険法、労働安全衛生法



回数	講義内容	回数	講義内容
21	2 1、社会福祉法、生活保護法		
22	2 2、児童福祉法、障害者基本法		
23	2 3、身体障害者福祉法、知的障害福祉法		
24	2 4、母子及び寡婦福祉法		
25	2 5、老人福祉法、介護保険法		
26	2 6、原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律		
27	2 7、戦傷病者特別援護法		
28	2 8、特定疾患治療研究事業		
29	2 9、公害健康被害の補償等に関する法律		
30	期末考査		

#### 講義方法

プリントを配布  
適宜、グループ学習

#### 履修上の注意事項

- ・授業には休まず出席すること

#### 成績評価方法

授業態度、内容、小テスト、出席状況を考慮して評価する。

#### 教科書

医療法規の完全知識

#### 予習復習のアドバイス

Ⅰ 医療施設に関する法規～ⅩⅠ 各種担当規則、それぞれの小テストを実施  
各单元ごとの復習が必要となる

## 講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	後期	学 年	2年
学 科	医療秘書科（薬局コース）	講義時間	時間割参照		
科目名	医療安全管理	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	2
講師名	鈴木 郁子	実務経験	医療機関（総合病院2年・診療所6年）8年 医療事務員として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	医療安全管理の基本を学び、医療従事者に課せられた責務を学ぶ				
	<b>到達目標</b>				
	医療機関に就職後、安全管理者・管理職として活動する際に役立つ知識を学び、患者が安心して医療を受けられる一助となるべき人材を育成する				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	第Ⅰ編 なぜ医療安全か-医療安全概論として-1～5	11	第Ⅴ編 安全に関する取組みの現状 3.安全管理指針
2	第Ⅰ編 なぜ医療安全か-医療安全概論として-6～14	12	第Ⅴ編 安全に関する取組みの現状 4.産科医療保障制度
3	第Ⅱ編 医療安全にかかわる法律の概念	13	第Ⅴ編 安全に関する取組みの現状 5.医療事故調査制度
4	第Ⅲ編 セーフティマネジメント（安全管理）の必要性・重要性の理解 1.1～1.6	14	第Ⅵ編 医療事故と損害保険
5	第Ⅲ編 セーフティマネジメント（安全管理）の必要性・重要性の理解 2.1～2.5	15	第Ⅶ編 医療の質向上 1.今、なぜ、質向上か 2.基本用語の説明
6	第Ⅲ編 セーフティマネジメント（安全管理）の必要性・重要性の理解3.1～3.7	16	第Ⅶ編 医療の質向上 3.質管理の基本的な考え方 4.医療への適用
7	第Ⅳ編 ヒューマンファクターの観点から 1.人間信頼性工学	17	第Ⅶ編 医療の質向上 5.質評価
8	第Ⅳ編 ヒューマンファクターの観点から 2.心理学・労働安全など	18	第Ⅷ編 質マネジメント概論 1.基本的な理念
9	第Ⅴ編 安全に関する取組みの現状 1.各国の現状と取組み	19	第Ⅷ編 質マネジメント概論 2.TQMの概要 3.質マネジメントの歴史
10	第Ⅴ編 安全に関する取組みの現状 2.我が国の現状と取組み	20	第Ⅷ編 質マネジメント概論 4.TQMにおける主要な管理方式

回数	講義内容	回数	講義内容
21	第VIII編 質マネジメント概論 5.質管理 (QC) 手法/技法		
22	第IX編 医療のTQM七つ道具 1.業務工程 (フロー) 図 2.QFD		
23	第IX編 医療のTQM七つ道具 3.FMEA 4.5W1Hメリット・デメリット表		
24	第IX編 医療のTQM七つ道具 5.RCA 6.対策発想チェックリスト		
25	第IX編 医療のTQM七つ道具 6.まあ、いいか防止メソッド		
26	第X編 病院組織概論 1.有機的組織確立の理論 2.組織管理		
27	第X編 病院組織概論 3.組織分析、監査システム 4.組織変革		
28	第XI編 医療安全への具体的な取り組み 1.医療安全の組織作りとその運営		
29	第XI編 医療安全への具体的な取り組み 2.医療安全教育の必要性和取り組み事例		
30	期末考査		

### 講義方法

プリントを配布  
適宜、グループ学習

### 履修上の注意事項

- ・授業には休まず出席すること

### 成績評価方法

授業態度、内容、小テスト、出席状況を考慮して評価する。

### 教科書

医療法規の完全知識

## 講義要項（シラバス）

<b>年 度</b>	2020年度	<b>時 期</b>	後期	<b>学 年</b>	2年
<b>学 科</b>	医療秘書科（薬局コース）	<b>講義時間</b>	時間割参照		
<b>科目名</b>	業務概論	<b>講義曜日</b>	時間割参照	<b>講義回数</b>	15
		<b>単位時間数</b>	30	<b>単位数</b>	1
<b>講師名</b>	太田 利佳	<b>実務経験</b>	医療機関（総合病院）に医療事務員として5年勤務		
<b>講義目標</b>	<b>一般目標</b>				
	医療文書を作成するにあたって医師事務作業補助作業を理解する				
	<b>到達目標</b>				
	医師事務作業補助者の各文書作成業務、作成時の規則等を理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	医師事務作業補助者の定義	11	病院組織の特徴
2	医師事務作業補助者の必要性	12	医師の業務
3	役割分担通知とチーム医療通知	13	病院の概念、組織および設備
4	医師事務作業補助体制加算	14	医薬品と医療機器
5	医師事務作業補助業務の特徴	15	期末考査
6	体制加算ができた背景		
7	人員基準		
8	医師事務作業補助者の配置場所		
9	病院勤務医の負担軽減処遇改善		
10	院内規定の整備		

**講義方法**

プリントを配布  
適宜、グループ学習

**履修上の注意事項**

- ・授業には休まず出席すること

**成績評価方法**

授業態度、内容、小テスト、出席状況を考慮して評価する。

**教科書**

医師事務作業補助者テキスト3

## 講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	後期	学 年	2年
学 科	医療秘書科（薬局コース）	講義時間	時間割参照		
科目名	医療文書	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	2
講師名	太田 利佳	実務経験	医療機関（総合病院）に医療事務員として5年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	医療文書を作成するにあたって医師事務作業補助作業を理解する正しい文書の作成方法を学習する。				
	<b>到達目標</b>				
	診断書や証明書、申請書の作成方法を身に付け、使用目的や提出先、様式・記載方法について理解を深め、実務に活かせるようにする。 医師事務作業補助技能認定試験の合格を目指す。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	第1節 法的規制 第2節 一般的留意事項	11	第7節 医療要否意見書（生活保護）
2	第3節 診断書・証明書	12	第7節 医療要否意見書（生活保護）
3	第3節 診断書・証明書	13	第8節 休業補償給付支給請求書
4	第3節 診断書・証明書	14	第8節 休業補償給付支給請求書
5	第4節 傷病手当金	15	第9節 自動車損害賠償責任保険診
6	第4節 傷病手当金	16	第9節 自動車損害賠償責任保険診
7	第5節 死亡診断書・死体検案書	17	第10節 治療用装具証明書
8	第5節 死亡診断書・死体検案書	18	第10節 治療用装具証明書
9	第6節 診療情報提供書	19	第11節 特定疾患医療受給者証交付申請書
10	第6節 診療情報提供書	20	第11節 特定疾患医療受給者証交付申請書

回数	講義内容	回数	講義内容
21	第12節 主治医意見書（介護保険）		
22	第12節 主治医意見書（介護保険）		
23	（テキスト3） 第1章 医師事務作業補助業務について		
24	第1章 医師事務作業補助業務について		
25	第1章 医師事務作業補助業務について		
26	第2章 診療録の記録・電子カルテ 第1節 診療録の記載について		
27	第2章 診療録の記録・電子カルテ 第1節 診療録の記載について		
28	第2章 診療録の記録・電子カルテ 第1節 診療録の記載について		
29	第2節 電子カルテについて		
30	期末考査		

#### 講義方法

プリントを配布  
適宜、グループ学習

#### 履修上の注意事項

- ・授業には休まず出席すること

#### 成績評価方法

授業態度、内容、小テスト、出席状況を考慮して評価する。

#### 教科書

医師事務作業補助者テキスト4

## 講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	後期	学 年	2年
学 科	医療秘書科（薬局コース）	講義時間	時間割参照		
科目名	臨床医学Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	2
講師名	太田 利佳	実務経験	医療機関（総合病院）に医療事務員として5年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	臨床医学全般について検定内容も含め学習する。				
	<b>到達目標</b>				
	病院職員として必要な臨床医学の知識を習得し、実務に活かせるようにする。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	chapter 1 外科とは	11	chapter 4 産科・婦人科①女性の性周期～③異常妊娠
2	chapter 2 外科領域疾患の診断と治療①中枢神経系	12	chapter 4 産科・婦人科①女性の性周期～③異常妊娠
3	chapter 2 外科領域疾患の診断と治療②呼吸器系 ③循環器系	13	chapter 4 産科・婦人科④新生児領域～⑥婦人科の腫瘍
4	chapter 2 外科領域疾患の診断と治療⑤肝臓、胆嚢 ⑥乳腺、内分泌	14	chapter 4 産科・婦人科④新生児領域～⑥婦人科の腫瘍
5	chapter 2 外科領域疾患の診断と治療⑦泌尿器系 ⑧整形外科	15	chapter 4 産科・婦人科④新生児領域～⑥婦人科の腫瘍
6	chapter 2 外科領域疾患の診断と治療⑨耳鼻咽喉科	16	chapter 5 皮膚科①皮膚のしくみと働き
7	chapter 2 外科領域疾患の診断と治療⑩眼科	17	chapter 5 皮膚科②皮膚の病的な状態
8	chapter 3 小児疾患の診断と治療①消化器疾患 ②栄養障害	18	chapter 5 皮膚科②皮膚の病的な状態
9	chapter 3 小児疾患の診断と治療③呼吸器疾患～⑧出生前疾患	19	chapter 5 皮膚科③主な皮膚疾患
10	chapter 4 産科・婦人科①女性の性周期～③異常妊娠	20	chapter 5 皮膚科③主な皮膚疾患



回数	講義内容	回数	講義内容
21	chapter 5 皮膚科③主な皮膚疾患		
22	chapter 5 皮膚科③主な皮膚疾患		
23	chapter 6 画像診断①X線撮影		
24	chapter 6 画像診断②磁気共鳴診断装置		
25	chapter 6 画像診断③超音波断層撮影		
26	chapter 6 画像診断④核医学検査		
27	chapter 6 画像診断⑤内視鏡検査		
28	期末試験対策授業		
29	期末試験対策授業		
30	期末考査		

<b>講義方法</b> プリントを配布 適宜、グループ学習
<b>講義で使用する機器・教材</b>
<b>履修上の注意事項</b> ・授業には休まず出席すること
<b>成績評価方法</b> 授業態度、内容、小テスト、出席状況を考慮して評価する。
<b>教科書</b> <u>臨床医学Ⅰ（前期継続）</u>
<b>参考書</b> 特になし
<b>予習復習のアドバイス</b> 授業前に教科書を読んでおくこと。 授業後は、教科書・ノートで重要事項の復習を行うこと。